

## 9年目の秋を迎えて

名古屋音楽大学教授 音楽学部長 露木 薫

時が経つのは早いもので、めいおんの常勤教員として9年目の秋を迎えました。長年に亘り北川晋先生や亀井明良先生が築いて来られた管楽コースの伝統を守りながら更なる発展を目指して日々努力し工夫を重ねて参りました。

実技成績優秀者には更なる上達のチャンスとなるよう『プリヴィレッジ・レッスン制度』と名付けたオーケストラ首席奏者クラスの客員教員による褒賞的ダブルレッスン制度を導入したり、吹奏楽に特化した新コースを立ち上げる代わりに、将来吹奏楽指導の現場で頑張りたいという学生さんがコースの分け隔てなく履修可能な『吹奏楽指導者養成プログラム』という講義系6科目・実技系6科目を織り混ぜた吹奏楽指導のスキルアップのための授業体系を組んだり、管楽合奏の授業では非常勤の先生方にも指導担当をお願いし、すべての楽器の教員からアンサンブルの指導が受けられるように、また、指導体制を2本立て同時進行に充実させました。

一番大きく変わった授業は吹奏楽でしょうか。亀井明良先生から引き継いだ当初の3年間は孤軍奮闘でしたが、4年目には吹奏楽にも大変造詣の深い広島交響楽団クラリネット奏者として活躍されていた橋本真介先生が専任教員に就任され二人三脚で、5年目からはシエナ・ウィンド・オーケストラや東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団のトランペット奏者として活躍されていた上田仁先生も専任教員に就任されて、3人寄れば何とか…で、3人それぞれの経験を基に指導を分担するバラエティーに富んだ体制を取り、シンフォニック・ウィンズ定期演奏会も3人の指揮で行うようになりました。不思議なもので同じ学生の演奏でも指導者が変わるとバンドの音色も少しずつ違うようで興味深いです。ここ2年間のコロナ禍の中では、アンサンブルや合奏系の授業をはじめ、授業実施方法における感染防止対策に細心の注意を払いながら進めており、幸い学内で感染が広がるような事態は起こっておりません。

名音大を志望する受験生の志望動機の中には、「中学校や高校で出会った先生のように将来自分も教員に、また指導者になりたい」という恩師への憧れが音大に進む原動力になっている人が少なくありません。音楽家を志す者にとって、音楽は人生を豊かにする大変素晴らしいもの以上に自分という存在そのものと言えますが、それ以上に人と人の出会いは人生に影響を与え、生きる上での心の支えとなり、生涯のかけがえのない大切な柱になります。

名音大で出会う学生さん達には、それぞれの専門を深め精一杯磨き上げながら、人として大きく成長して欲しいと願っています。その大事な数年間の成長を預かるという責任の重さを強く心にきざみつけて私自身も学びを継続し精進し、名音大での教育を教職員一丸となって頑張っていきたいと思っています。

卒業生の皆様にとっても誇りある母校として躍進する名古屋音楽大学を築き続けたいとも思っています。どうぞ大学主催演奏会などにも足をお運び頂きまして、後輩たちのステージでの輝きをご覧頂けますと幸いです。

## 令和3年度 役員・参与・顧問 (敬称略) ~よろしくお願ひします~

会長	百合草 薫 (名古屋・東丘小トワイライト)	会計監査	中村由美子 (名古屋・宮中教諭)
副会長	藤松 真人 (名古屋・山田中校長)	参与	佐藤 恵子 (名古屋音楽大学学長)
同	塚寄 崇史 (名古屋・守山西中教諭)	同	露木 薫 (同音楽学部長)
庶務	宇佐美ほたか (名古屋・守山中教頭)	顧問	川合 恒之 (同教職指導室)
会計	斎藤 玲子 (名古屋・上社小教諭)		

## 研修会 8月28日(土) 名古屋音楽大学 ホールDより動画配信

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、めいおんの会においても研修会を動画配信という形で行いました。

研修会は「ジャズへのお誘い」と題して、名古屋音楽大学講師でジャズサクソフレイヤーの小濱安浩先生を講師にお迎えして行いました。会長挨拶の後、早速テナーサクソの演奏が始まりました。プレーヤーとして活躍されている卒業生の平手裕紀さんの Hammondオルガンと浅井翔太さんのドラムのサポートを受けたその演奏は、瞬間にその場を別の世界に誘ってしまいます。「星影のステラ」によるジャズの魅力全開の幕開けとなりました。2曲目は、ピアノとドラムとのセッションで、バラードの名曲「オールド フォークス」の演奏でした。もちろん、どちらの曲でも、ジャズの魅力である素晴らしいアドリブを聴くことができたのは言うまでもありません。



演奏が落ち着いたところで、副会長 塚寄先生の司会で、ジャズの成り立ちや特徴などを小濱先生から教えていただく時間となりました。その中では「オータム リーブス」を使ってジャズの最大の特徴である、コードからのインプロビゼーション(即興演奏)を解説しながら実演していただくことができました。コード進行を使ったアドリブを「響きの河の中に私たちは居る。そしてその地図はみんなが持っている」というようなお話や、そのハーモニーからあえて外して、さらに違った魅力を出していくといったことを実際の演奏で感じ取ることができました。さらに、「ブルー ボッサ」を使って、ボサノバやルンバ、そしてスイングなどジャズの多様なリズムについても、演奏を通して解説してくださいました。

後半は、塚寄先生も参加して、「ゼアー ウイル ネバー ビー アナザー ユー」の演奏に始まり、「オン グリーン ドルフィン ストリート」など、それぞれの楽器のアドリブが際立つ名曲をアンコールも含めて聴かせていただきました。



小濱先生は、ジャズとは、「川の流れるような大きなルール。枠組みの中でのコミュニケーション。正しいのか、間違っているのかだけが先行するのではなく、間違ってもいいという雰囲気作りが必要。」と話されました。音楽教師として、主体的に取り組む子どもたちを育てるにはとても大切なことと実感しました。また、チャットを通しての質問から、子どもたちに役立つリズムの取り方も実践しました。早速授業で活用できるものでした。

今回の研修会は、会員の皆さんには、直接生の演奏に触れていただくことができませんでしたが、小濱先生を始め、卒業生の方のおかげで、動画からでも十分音楽の素晴らしさが伝わったのではないかと思います。ぜひ、子どもたちにジャズの魅力を伝えてあげてください。

【編集後記】◆今回の研修会。役員間では、「講師にプロプレイヤーを依頼している以上、もう延期はできない。今年できなければジャズの研修会はない。何とか実現したい。」という、強い思いがありました。しかし、世は感染者拡大中。そこで、リモートでの実施となりました。初めての試みであり、皆さんのところへ上手く届く心配な点もありましたが、大学当局のご理解もあり、何とか実現することができました。◆小濱先生から、「いつでも知りたいことがあれば聞いてほしい」とのお言葉もいただきましたので、お尋ねになりたいことがありましたら、事務局までご連絡ください。なお、著作権の関係で、YouTubeでの配信、DVDの製作はごさいません。当日視聴できなかった皆さんには、誠に申し訳ありませんが、ご理解いただきたく存じます。◆名古屋市立小中学校では、リコーダー、鍵盤ハーモニカがOKになりました。また、歌唱もマスク着用で前後左右最低1m間隔になりました。ようやく『音楽』らしい授業ができるようになってきました。こういう時だからこそ、会員相互の交流が一層活発になることを願っています。(ゆ)

◆名古屋市の皆様へ  
この度は、ご参加いただき、誠にありがとうございました。また、ご声援いただき、誠にありがとうございました。今後も、ご参加いただき、誠にありがとうございました。また、ご声援いただき、誠にありがとうございました。



